

	視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容	
				具体的な方策	評価の観点
1	教育課程 学習指導	<p>①学習指導要領改訂に対応し、教科学習と課題研究の相乗効果による「知の循環」が有効に機能するための教育課程を編成する。</p> <p>②「主体的・対話的で深い学び」を実現するために、更なる授業改善に取り組み、評価方法を研究する。</p>	<p>①STEAM 教育研究推進校として生徒の主体性を引き出す探究活動や教科横断的な学びの機会を提供し、文理の枠にとられない科学的思考力と創造性、国際性を伸長する。</p> <p>②主体的・協働的な学びの実現に向けた授業改善を進めるとともに、生徒のモチベーションアップ、学力伸長につながる評価の在り方を研究し、その実践に取り組む。</p>	<p>①生徒の興味・関心に応じた探究活動及び教科横断型学習の授業を実施し、新しい授業形態へ転換を図る。</p> <p>②授業見学や研究授業等、教員相互の授業研究の機会を増やす。</p> <p>②教科会を定期的に開催して評価の在り方を研究し、研究授業を行う。</p>	<p>①SSH事業・STEAM教育に係る校内体制、実施計画を適切に作成し、実践できたか。また、新たな授業形態が具体化できたか。</p> <p>②「生徒による授業評価」「リフレクションシート」等に授業改善の成果が見られたか。</p> <p>②教科会で定期的な授業研究を行ったか。評価の在り方の改善をねらいとする研究授業を実施できたか。</p> <p>②職員全員が年間で一度は研究授業等を参観あるいは実施し、研究協議に参加したか。</p>
2	生徒指導・ 支援	<p>①特別活動や部活動を通じてトータルな人間教育を行い、将来リーダーシップを発揮できるようなバランスの取れた人材を育成する。</p> <p>②SC、SSWや外部機関と連携した支援体制を構築し、個々に応じた支援を行う。</p>	<p>①特別活動や部活動に生徒が主体的に取り組むよう支援し、校訓「自主自律」の精神を育むとともに、他者を尊重し、多様性を受容できる社会性を涵養する。</p> <p>②従前のSCの配置に加え今年度新たにSSWが配置されたことを活かし、校内の生徒支援体制の充実を図る。外部機関との連携も強化し、生徒個々への支援に活かす。</p>	<p>①体育祭や部活動の中で生徒による企画・運営の機会を多く設定する。</p> <p>①生徒が互いに多様性を受容できるよう、学年集会・ホームルーム・授業等で考える機会を設ける。</p> <p>②SC・SSWと各学年の教育相談コーディネーターの連絡会議により、生徒情報の定期的かつ日常的な共有と迅速な支援を行う。</p> <p>②学年会で生徒情報を定期的に共有し、それらの情報を企画会議において集約することで、学校全体での情報共有を確実に進行。</p>	<p>①アンケート等により、生徒の意識の変容を量る。</p> <p>①特別活動や部活動に生徒が主体的に取り組む場を設定できたか。</p> <p>①他者を尊重するようなSNSの適切な使用法を指導することができたか。</p> <p>②SC・SSWと各学年の教育相談コーディネーターによる連絡会議によって、生徒情報の共有と十分な支援を行うことができたか。</p> <p>②学年会での情報共有、企画会議での集約により生徒支援に必要な情報が円滑かつ迅速に共有されたか。</p>
3	進路指導・ 支援	<p>①生徒一人ひとりが高い志望を実現するためのキャリア教育プログラムを構築し、3年間を通じて一貫した進路指導を行うことで希望進路の実現に繋げる。</p>	<p>①4年間の目標の最終段階として進路指導・支援の3年間の在り方を見直し、学力向上進学重点校の指定を目指す。その指針に照らした目標を定め、進学実績の向上を図る。</p> <p>①生徒が自信を持って第一志望進路を選択できる実効性のある進路支援体制に向けて必要な改善を行う。</p>	<p>①学校として一貫した進路指導方針を定め、教員の共通理解を図る。各学年が方針に沿って生徒に有効な進路支援を行い、進路実績の向上につなげる。</p> <p>①課外講習と外部模擬試験のあり方を見直して学力の向上を図るとともに、説明会や面談を通じた進路指導の改善、職員の進路指導力を向上させる。</p>	<p>①進路指導を検証し、具体的な進路指導モデルを作成できたか。また、それを基に個々の生徒に適切な進路支援を行ったか。</p> <p>①難関大学への受験者数が増加したか。また、総合型選抜の受験者数が増加したか。</p> <p>①新しい課外講習の実施、外部模擬試験の見直しが見直しができたか。生徒向けの進路説明会や講演、職員向けの研修会を開催できたか。</p>
4	地域等との 協働	<p>①探究活動を中心に近隣の小中学校等との交流を行い、地域貢献に繋げる。</p> <p>②コミュニティスクールを活用し、保護者・地域との連携をより一層深め、開かれた学校づくりを推進する。</p>	<p>①探究活動や課題研究を通して得た知見を地域へ積極的に発信し、地域社会における科学の普及や地域の活性化につながるネットワークの構築を図る。</p> <p>②コロナ禍で停滞していた、生徒・保護者や近隣住民が参加できる地域連携を具体化し、家庭・地域の教育力を本校の教育活動・地域貢献につなげる。</p>	<p>①各種コンテストや学会への挑戦を促す。また、それらにより得た知見を活かした生徒による「地域科学教室」の実施を支援する。</p> <p>②地域の防災訓練等に参加し、地域において果たすべき役割を具体的に検討する。</p> <p>②ボランティア活動に生徒が参加できるよう地域連携を進める。地域住民による学校支援ボランティアの再開を模索する。</p>	<p>①各種コンテストへの参加が昨年度より増加したか。</p> <p>①アンケートにおいて生徒の主体性・積極性に関わる変容が見られたか。</p> <p>①生徒主体の地域への科学教室が実施できたか。</p> <p>②生徒が地域の防災訓練等に関わるなど、地域活動に参加できたか。</p> <p>②学校支援ボランティアを再開できたか。</p>
5	学校管理 学校運営	<p>①令和2年度末からの耐震工事に備えて環境整備を進め、教育環境への影響を最小限にとどめる。</p> <p>②HPをはじめとしたツールを活用し、学校からの積極的な情報発信を行う。</p> <p>③教職員の仕事を精査し、組織的な学校運営と校務の効率化を図る。</p>	<p>①A棟の耐震工事及び工事終了後の仮設校舎からA棟への移転について安全に万全を期すとともに生徒の学習環境への影響を最小限に抑える。</p> <p>②Google Classroom、ロイノート、一人一台端末、HP、ツイッターなど多様なツールの活用により学習環境の円滑な運営及び外部への情報発信の充実を図る。</p> <p>③業務のスクラップを視野に入れた大胆な見直しと細部の精査を行い、実効性のある働き方改革につなげる。</p>	<p>①工事の工程・状況についての定期的な情報共有、業者も含めた連携を徹底し、安全な学習環境を確保する。</p> <p>②県教育委員会から配付されたiPadを全担任が活用し、HR活動や情報発信を充実させる。</p> <p>②HPとTwitterの担当割り振りを徹底し、前年度より円滑にアップロードする。</p> <p>③グループ業務、学年、委員会等あらゆる角度からの業務の精査を行い、不要な業務を削減する。</p>	<p>①耐震工事に関する情報共有、連携が適切に行われたか。</p> <p>①耐震工事に際して安全かつ必要な学習環境を確保できたか。</p> <p>②担任に配付のiPadが日常的に活用されたか。</p> <p>②学校HPとTwitterの更新回数が前年度よりも増えたか。</p> <p>③業務の精査、見直しによるスリム化が図れたか。</p> <p>③職員の時間外勤務を前年度より削減できたか。</p>